

「福井ふるさと元気宣言」推進に関する政策合意

私は、知事の政策スタッフとして、「福井ふるさと元気宣言」に掲げられた政策等を実現するため、次に掲げる施策・事業について重点的に実施することを西川一誠知事と合意します。

平成30年4月

福井県知事 西川 一 誠

農林水産部長 向 出 茂 三

30年度の施策

1 「農」・「林」・「漁」業を意欲と誇りの総合産業へ

◇食料産業パワーアップ

○「ふくい農業基本計画」および「食育・地産地消推進計画」の策定

- ・産業政策、地域政策、人口減少対策の観点から、新たな「ふくい農業基本計画」を策定します。

- ・健康で豊かな生活を実現し、食育・地産地消の取組みを継続的に推進するため、「ふくいの食育・地産地消推進計画」を改訂します。

○競争力を高める福井米づくり

- ・「いちほまれ」の本格生産・販売に向け、生産量を600トンから3,200トン、うち有機・特別栽培米は10倍の500トンに拡大するとともに、2年連続「特A」評価を獲得します。

- ・県内・首都圏に加え関西・中京圏へ販路を拡大し、テレビ等メディアを通じた情報発信の強化や「国体・障スポ」でのPR、さらには「いちほまれ」を提供する飲食店を増やし、全国ブランド定着につなげます。**チャレンジ施策**

- ・100ha規模のメガファームや40ha規模以上の経営体の育成とあわせて、新規就農1～2年の農業者を対象に栽培や機械操作の研修を実施し、技術習得を支援していきます。

目 標	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (目標)
メガファーム数 (累計)	3組織 (8組織)	4組織 (12組織)	4組織 (16組織)	4組織 (20組織)

○九頭竜川地域 農と水の振興ビジョンの推進

- ・三里浜砂丘地において風雪に強いハウスを早急に再整備し、ニンジン、ラッキョウ、ショウガ、ミディトマト、コカブの生産を拡大します。

目 標	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (目標)
三里浜砂丘地園芸 生産面積	148ha/年	163ha/年	177ha/年	190ha/年

- ・日本一の生産基盤を活かした農業について、教科書への掲載を目指します。また、九頭竜川地域のパイプラインを地域の児童の学習に活用します。

目 標	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (目標)
学習会の開催校数 (累計)	— —	41校 —	22校 (63校)	22校 (85校)

○福井の野菜・果物をもっと市場へ

- ・周年出荷を目指した大規模園芸施設整備を県下全域に拡大し、ミディトマト、フルーツトマト、イチゴ等の生産を拡大します。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
大規模園芸施設 販売量	270 t /年	475 t /年	790 t /年	950 t /年

- ・水田を活用した排水性の良い圃場づくりと大規模栽培を実践し、ネギ、キャベツ、ブロッコリー、タマネギの生産を拡大するとともに、整備した野菜の集出荷貯蔵施設を活用し、県内外への安定的な契約出荷につなげます。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
集落園芸面積	144ha/年	201ha/年	251ha/年	300ha/年

- ・有望な品種を現地で栽培実証し、赤、黄、オレンジのカラフルなスペシャルミディトマトを3品種開発します。

○「福井百歳やさい」の生産拡大

- ・越前白茎ごぼう、菜おけ、吉川ナスなど「福井百歳やさい」の生産面積の拡大を支援し、直売所や農家民宿・農家レストラン等への販売を促進します。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
福井百歳やさいの 生産面積	12.0ha/年	14.6ha/年	17.1ha/年	20ha/年

○畜産物の生産・販売拡大

- ・若狭牛の導入支援や提供店の新規開拓を行い、三ツ星若狭牛の生産・販売を拡大します。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
三ツ星若狭牛販売額	2.5 億円 / 年	3.0 億円 / 年	3.4 億円 / 年	3.5 億円 / 年

- ・新たに「福地鶏」の肉の販売を開始します。また、たまごやたまごを使ったスイーツ、肉料理を P R し、福地鶏の生産・販売を拡大します。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
福地鶏販売額	—	—	1,252 万円 / 年	2,400 万円 / 年

○6次産業のスケールアップ

- ・食文化、歴史などの地域のストーリー性や食材の栄養成分を新商品の開発・販売に活かし、「国体・障スポ」などで土産物として P R することにより販路開拓を進め、6次化商品の販売額を増やします。
- ・ふくいオリジナル酒米の品種を県酒造組合と共動して選定し、地酒の開発を支援します。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
6次化商品の販売額	1.7 億円 / 年	2.3 億円 / 年	2.9 億円 / 年	3.3 億円 / 年

◇「里山里海湖ビジネス」の新展開【部局連携】

○中山間産業の新スタイル

- ・農地の維持管理が困難な中山間地域等において、ＪＡ等による広域作業受託組織を育成し、耕作放棄を防ぎます。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
広域作業受託組織の 設立 (累計)	3 組織 (4 組織)	2 組織 (6 組織)	2 組織 (8 組織)	2 組織 (10 組織)

- ・中山間地域において、収益性の高い施設園芸や、鳥獣被害の少ない果樹栽培を推進します。また、小規模な生産組織を 10 集落で育成します。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
施設園芸や果樹栽培 への転換 (累計)	10 か所 1.0ha —	13 か所 4.0ha (23 か所) (5.0ha)	19 か所 2.3ha (42 か所) (7.3ha)	18 か所 1.7ha (60 か所) (9.0ha)

- ・特用林産物については、ジャンボしいたけ（香福茸）や菊炭、オウレンなど付加価値が高いものや、くず、コウゾ、ウルシなど本県の伝統産業を支える原材料の生産を支援し、販売を拡大します。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
特用林産物生産額	5.7 億円/年	6.3 億円/年	6.9 億円/年	7.5 億円/年

○福井型・新グリーンツーリズム

- ・ミニ農家レストラン、ミニ直売所、体験交流型農園の整備を支援することにより、里山里海湖ビジネスを推進します。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
農家レストラン、 直売所、体験交流型 農園の整備 (累計)	30 か所 (44 か所)	30 か所 (74 か所)	28 か所 (102 か所)	32 か所 (134 か所)

- ・ワイン醸造やワインブドウ栽培にかかる人材を育成する「ふくいワインカレッジ」を5月に開校し、県産ワインによる中山間地域の振興を図ります。**チャレンジ施策**

- ・タコかごや刺網の漁業体験メニューの新設や、マハタやトラウトサーモンなどのコース料理を県内外にPRし、さとうみの宿の売上額を増加させます。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
さとうみの宿の 売上額	37 億円/年	38.1 億円/年	39 億円/年	40 億円/年

- ・県内3箇所を設定したトレイルコースにおいて、イベントの開催を支援し、誘客を進めます。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
トレイルコース 利用者数	1 千人/年	1.2 万人/年	1.7 万人/年	2 万人/年

○鳥獣の被害対策

- ・被害の実態に応じた電気柵・金網柵等の新規整備や更新、地域ぐるみの追い払い活動等を行い、農作物の被害を減らします。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (見込)	30 年度 (目標)
有害鳥獣による 農作物被害面積	241ha/年	199ha/年	180ha 以下/年	150ha 以下/年

- ・シカの捕獲技術の向上を図るための研修会の開催や優良捕獲者の登録・派遣を行う人材バンクの活用を市町に促すことにより、体制を強化し、有害鳥獣の捕獲を進めます。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (見込)	30 年度 (目標)
有害鳥獣捕獲頭数	16,700 頭/年	20,600 頭/年	21,000 頭/年	21,000 頭/年

◇「ふくい食ブランド」を地消・外商【部局連携】

○日本でいちばんおいしい学校給食へ

- ・小学校における学校給食畑を県内全小学校で実施することとし、さらに生産者との交流や、先進的な生産現場の見学を支援します。また、「ふくいの田んぼでスマイル写真コンテスト」を9月まで募集し、広く県民に農業の大切さや魅力を伝えます。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
学校給食畑実施校数	132 校/年	150 校/年	170 校/年	190 校/年 (県内全校)

○福井ゆかりの店ネットワーク

- ・産地視察等を通じて県外有名店シェフに本県食材をPRし、新鮮配送システムの活用により、「福井ゆかりの店」の販売額を拡大します。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
「福井ゆかりの店」 の販売額	2,500 万円 /年	3,000 万円 /年	4,300 万円 /年	5,000 万円 /年

○海外に売り込む「福井の食」

- ・「ふくい食輸出サポートセンター」が中心となり、香港やシンガポール、台湾のほか、新たにタイをターゲットとして、食文化提案会や商談会、飲食店での福井フェア等を開催します。本県の食材を取り扱う飲食店や新たに輸出に取り組む県内事業者を増やし、食品輸出額を拡大します。

チャレンジ施策

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
県産食材取扱い 飲食店数 (累計)	8 店 (10 店)	7 店 (17 店)	13 店 (30 店)	10 店 (40 店)
輸出に取り組む 事業者数 (累計)	7 事業者 (21 事業者)	3 事業者 (24 事業者)	3 事業者 (27 事業者)	3 事業者 (30 事業者)

◇ もうかる漁業へ転換加速

○里山里海湖の「宝」を福井ブランドへ

- ・食や旅行に関心の高い個人をターゲットに越前がにをPRするとともに、地理的表示（GI）保護制度への登録を目指しブランド力の保護・向上を図ります。
- ・県内の大型養殖施設において、ふくい育ちのトラウトサーモンの養殖を拡大するため、既存の内水面施設を活用して県産種苗を7.5万尾から12.5万尾に増産し、日本一の生産地を目指します。

○地魚の加工・流通拡大

- ・水産加工施設において、新たにHACCP認証を取得し、漁協女性部と共働した料理や惣菜を開発します。また、ラッピングカーによるPRや首都圏における商談会の開催により、加工品の販売を増やします。

目 標	27年度 （実績）	28年度 （実績）	29年度 （実績）	30年度 （目標）
加工品販売額	375 億円/年	381 億円/年	385 億円/年	395 億円/年

○水産学術産業拠点の整備

- ・トラウトサーモンの共同研究の成果を活用した、地下海水による中間育成施設の候補地を選定するとともに、マハタの種苗生産施設を年度内に建設します。

◇森林を市場にもっと直結

○県産材をフル活用

- ・コミュニティ林業や民有林と県有林が一体となった木材生産団地を拡大し、山ぎわ等の間伐を進め、県産材の生産を増やします。また、主要道路や国体会場周辺等での間伐を進めます。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
コミュニティ林業 (累計)	20 集落 (75 集落)	20 集落 (95 集落)	20 集落 (115 集落)	20 集落 (135 集落)

- ・製材所のニーズに応じて、安定的かつ効率的に丸太を供給するシステムを構築し県産材の利用量の増加を図ります。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
新システムによる 県産材の利用	—	—	—	3,000 m ³ /年

- ・A材の需要を拡大するため、国内最大規模の展示会への出展や大手建材メーカー等との商談会を開催し、都市圏などへの県産材製品の新たな販路開拓を行います。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
県産材製品の 販路開拓	—	—	550 m ³ /年	1,000 m ³ /年

- ・間伐材をA、B、C材に選別し、効率的に出荷するためのウッドターミナル等を整備し、流通の低コスト化を実現し、木質バイオマスへの安定供給を着実に進めます。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
ウッドターミナル等 取扱量	10,000 m ³ /年	38,000 m ³ /年	58,000 m ³ /年	80,000 m ³ /年

- ・ G P S を活用した境界測量等に対して支援し、山ぎわの森林境界の確認を加速します。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
森林の境界確認	—	1,600ha	1,600ha	1,800ha
(累計)	—	—	(3,200ha)	(5,000ha)

2 福井から人材育成

◇産業人材の育成・誘致システム

○人材育成カレッジなど研修体制を充実・強化

- ・園芸カレッジにおいて、排水対策や冬期間の施設管理など気象災害に遭わないための実習を強化するとともに、修了生や若手農業者との交流を進め、スムーズな就農に繋がるよう支援します。
- ・水産カレッジにおいては、小型船舶や無線の資格のほか、新たに水揚げや運搬に使用するクレーン、フォークリフトの資格取得のカリキュラムを追加し、新規漁業就業者を確保・育成します。
- ・ふくい林業カレッジにおいて、伐採・搬出技術や林業機械の運転資格の取得のための研修などを行い、新規林業就業者を確保・育成します。
- ・農林水産系高校を対象に最先端技術の授業を実施するとともに、カレッジでの現地見学会等を開催し、就業に結びつけます。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
＜農 業＞ 新規就農者数 (累計)	80 人	91 人 (171 人)	90 人 (261 人)	89 人 (350 人)
＜漁 業＞ 新規就業者数 (累計)	21 人	21 人 (42 人)	20 人 (62 人)	18 人 (80 人)
＜林 業＞ 新規就業者数 (累計)	40 人	41 人 (81 人)	49 人 (130 人)	50 人 (180 人)

- ・ふくい農業ビジネスセンターにおいて、農家レストランや農家民宿等の実践に必要な研修を開催し、農業ビジネスを実践する人材を育成します。また、開業に向けた個別のアドバイスや誘客活動を支援します。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
農業ビジネスの 人材育成 (累計)	—	64 人 —	66 人 (130 人)	34 人 (164 人)

- ・総合グリーンセンターにふくい林業研修センターを開設し、新たに山菜やきのこの生産販売研修や県産材を利用したD I Yを行うなど、人材育成研修を5月初旬から年間280日（受講者延べ5,000人）実施します。

3 日本一の安全・安心

◇あらゆる災害対応を迅速第一【部局連携】

○ハード・ソフトの県土強靱化

- ・基幹的農業水利施設 20 施設の診断を行い、機能保全計画を策定し、コンクリート構造物のひび割れ補修・断面修復やポンプ設備の部分的更新などの長寿命化対策を行います。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
機能保全計画策定 施設数 (累計)	46 施設 (280 施設)	50 施設 (330 施設)	50 施設 (380 施設)	20 施設 (400 施設)

4 豊かな環境、すぐれた風景を次の世代に

◇元気な里山里海湖【部局連携】

○福井の豊かな里山里海湖を次世代に

- ・農道や水路沿いにコスモスなどを植栽する農村景観保全や水田魚道の設置などの生態系保全を行う集落数を増やし、すぐれた風景、豊かな環境を次の世代に引き継ぎます。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
農村環境保全取組み 集落数 (累計)	169 集落 (718 施設)	146 集落 (864 施設)	206 集落 (1,070 施設)	30 集落 (1,100 施設)

5 国体・障スポの成功と「スポーツ福井」の実現、文化・芸術を身近に

◇県民総参加の福井国体・障スポ【部局連携】 **チャレンジ施策**

○花づくり活動の推進

- ・競技会場へのアクセス道路沿い等 17 か所において、花を植栽する「花の回廊づくり」を県内各地の地域団体等と実施します。